

ルイス・エチャバリ OECD/原子力機関(NEA)事務局長に対する 叙勲(旭日中綬章)の授与について

平成26年4月29日
OECD 日本政府代表部

1. 概要

平成26年4月29日、日本政府は平成26年春の外国人叙勲受章者の公表を行いました。外国人叙勲受章者55名の中の一人として、ルイス・エチャバリ(Mr. Luis Echavarri) OECD/原子力機関(NEA)事務局長が、我が国の原子力安全強化及び国際社会における対日理解の促進に寄与した功績により「旭日中綬章」を授与されました。主な経歴及び対日功績は以下のとおりです。なお、NEA 幹部の受章は初めてです。

2. 主要経歴

- (1) スペイン国籍、昭和24年生まれ。
- (2) 平成9年から NEA 事務局長に就任。以後、本日に至るまで約17年間に渡って NEA のトップとしてリーダーシップを発揮。
- (3) NEA 事務局長に着任する以前は、スペイン原子力安全委員会委員等を歴任
※なお、同氏は今年4月末に定年(65歳)により NEA 事務局長を退任します。

3. 主要対日功績

(1) 福島原発事故関係対応を通じた日本への貢献

同人は、平成23年の東北大震災後、原子力の専門家集団である国際機関 NEA の長として、同人のリーダーシップと英断により NEA の業務のうち、大部分を福島原発事故対応に傾注し日本に大きく貢献してきました。また、同人は震災1か月後、グリア OECD 事務総長と共に訪日し日本政府に対し、福島原発問題の解決に向けて NEA として全面的な支援を表明するとともに収束に向けた具体的な提案を行いました。

また、同人は加盟国と主体的に調整の上、平成23年夏に「福島原発事故に関するシニアタスクグループ」を設置し、各国の主要原子力安全規制当局関係者間で、福島原発事故後の各国の対応状況を把握し、国際的に実施すべき事項について検討の上、平成25年9月に同レポートをまとめました。同レポートは日本を含む加盟国が今後原子力安全を確保する上で有益なものとして期待されています。

さらに、平成24年12月の福島原子力安全閣僚会議に参加するため来日し、各国の関係閣僚とともにステートメントを発表するとともに、新しく設立された原子力規制委員会を含む関係省と意見交換を行っています。この他、同人のリーダーシップにより、NEA の専門家が継続的に来日し、今後の原子力安全の構築に貢献しています。

(2) 日本政府の取組に関する積極的な評価と発信並びに日本との協力への貢献等

同人は、過去これまで日本が原子力施設等の関係で事故・トラブルが起こった際も含め、NEA 事務局長として NEA から日本政府の取組に関する情報を的確に加盟国の主要なステークホルダーに発信し、日本政府の信頼性の維持・向上に寄与してきました。

また、同人は日本が重要視している次世代原子力技術開発や放射線防護の分野において、関連イベントの日本開催への尽力等、日本との協力関係の強化に貢献しました。

4. 問い合わせ先

OECD 日本政府代表部 一等書記官 釜井(01 53 76 61 81)

(了)